

2025年度

授業計画

1学年
(歯科衛生士科Ⅰ部)



日本ウェルネス歯科衛生専門学校

目 次

生物学	1
化学	2
臨床心理学	3
歯科英語	4
コミュニケーション論 I	5
解剖学	6
栄養代謝学	7
生理学	8
口腔生理学	9
口腔解剖学	10
組織・発生学	11
病理学・口腔病理学	12
微生物学	13
口腔微生物学	14
薬理学	15
口腔衛生学 I	16
口腔衛生学 II	17
衛生学・公衆衛生学	18
歯科衛生士概論	19
歯科臨床概論	20
保存修復学	21
歯科予防処置 I	22
歯科予防処置 II	23
歯科保健指導 I	24
歯科診療補助 I	25
歯科診療補助 II	26
歯科材料学 I	27
総合講座 I	28

■科 目	生物学	■講師名	足立 由希子
I 部 1 学年	前期	8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間
■学修概要			
歯科衛生士と必要な基礎知識の一環として、生命とその成り立ち、構造および仕組みについて生物学の観点から習得する。			
■授業目的、到達目標			
生命について、細胞、遺伝、神経、内部環境について学習する。教科書の太字で表される単語の意味がわかり、説明できること。歯科衛生学を学ぶときに使用される生物用語が理解できること、自身の進退について興味をもてることを目標とする。			
■授業方法			
パワーントを用い、教科書の該当箇所を確認しながら授業を進める。2回目以降は、前回の内容の復習として用語の確認を行う。			
■教科書 (書籍名・出版社)			
歯科衛生学シリーズ／生物学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
出席状況、及び定期試験による。			
■実務経験			
足立由希子：日本大学歯学部基礎自然科学分野(化学)に在籍しており、有機化学及び化学実験を担当。それらの経験を生かし、歯科に必要な化学の基礎知識を身につけてもらいたいと考えています。専門は超高熱古細菌の代謝について。			
■授業計画 (講義の流れ)			
1	生体防御 (免疫、ワクチン、アレルギー)。教 pp92-95		
2	生殖、遺伝について。教 pp50-59		
3	発生、ヒトの器官について。教 pp69-71、44-47		
4	刺激の受容と反応、恒常性。教 pp74-92		
5	組織と細胞。教 pp16-28		
6	生命とは何か。教 pp2-7		
7	進化の仕組み。教 pp9-11、97-102		
8	定期試験、解答解説		

■科 目	化 学	■講師名	足立由希子
I 部 1 学年	前期 8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間	講義 1 単位
■学修概要			
化学は、物質の性質、構造、変化に関する学問であり、繰り返して学ぶ生化学、生理学、薬理学等の基礎知識となる。化学を習得することにより、繰り返して学ぶ学問における理解の度合いが大きく高まる。			
■授業目的、到達目標			
化学の基礎と思われる原子、分子、結合、化学反応、物質の状態について学び、これらにまつわる用語について何を意味するかわかること、化学で使用する計算が解けることを目標とする。			
■授業方法			
パワーポイントとプロジェクターを用い授業を進める。また、授業中に用語の確認や計算を行う。ノートもしくはルーズリーフなど記述できるものを持参すること。			
■教科書（書籍名・出版社）			
使用しない			
■成績評価・講義上の注意			
出席状況、及び定期試験による。			
■実務経験			
足立由希子：日本大学歯学部基礎自然科学分野(化学)に在籍しており、有機化学及び化学実験を担当。それらの経験を生かし、歯科に必要な化学の基礎知識を身につけてもらいたいと考えています。専門は超高温古細菌の代謝について			
■授業計画（講義の流れ）			
1	水溶液		
2	水素イオン濃度 中和		
3	酸化 還元		
4	化学反応		
5	有機化合物 (結合、構造)		
6	有機化合物 (炭化水素化合物)		
7	ヒトをつくるもの		
8	定期試験、解答解説		

■科 目	臨床心理学	■講師名	近藤 卓
I 部 1 学年	前期	8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間 講義 1 単位
■学修概要			
臨床心理学の基本的な考え方と基礎的な知識を学ぶことを通して、自己理解を深めつつ、人と人の関係に対する理解を深める。患者の立場を理解して信頼関係を構築し、歯科衛生士として職務を果たしていくために役立つ、臨床心理学の理論と方法について理解を深める。			
■授業目的、到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 良好的な対人関係を構築するために、臨床心理学の基礎的な考え方を理解できる。 ・ 人間の行動を心理学的に考察し、問題行動への対応について理解できる。 ・ 人と人のコミュニケーションの多様性を理解し、現実の場面での人の心の動きについて理解できる。 			
■授業方法			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書、視聴覚教材及びパワーポイントを用いた解説 2. 質疑応答によって理解を深め、視野を広げる対話的・主体的・能動的な学習 			
■教科書（書籍名・出版社）			
近藤卓著『心理学から学ぶ健康～こころとからだと人間関係』金子書房			
■成績評価・講義上の注意			
評価：定期試験および授業態度（リアクションペーパーや授業への参加度）で総合的に評価する。			
注意点：受動的な受講に留まらず、自分の経験や実践に結び付けて考える能動的態度が望まれる。			
■実務経験			
資格・学位；臨床心理士。博士（学術）。			
所属学会；日本学校メンタルヘルス学会・理事、日本いのちの教育学会・理事長。			
経歴；東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学、高等学校教諭、中学校高等学校カウンセラー、ロンドン大学医学部研究員、東海大学教授、山陽学園大学教授などを経て、現在日本ウェルネススポーツ大学教授。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	自己紹介と授業の進め方（臨床心理学を学ぶための基本的な考え方）		
2	健康とコミュニケーション（心を豊かに育てる人間関係のあり方）第1章 p1-7		
3	他の人とコミュニケーションを取ろう（人間関係の基本形、自分を大切に思う気持ち）第3章 p20-37		
4	自分を大切にしよう（すごい自分とありのままの自分）第4章 p38-54		
5	生活の中でストレスと向き合うために（ストレス対処と心的外傷後成長の考え方）第5章 p55-78		
6	健やかな生活に心理学を生かすには（カウンセリングの考え方、意味と役割）第6章 p79-89		
7	健やかな生活に心理学を生かすには（自分の心をどう理解するか）第6章 p89-98		
8	定期試験、解答解説		

■科 目	歯科英語	■講師名	加藤有美 Joseph Ribas
I 部 1 学年	前期	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
診療や受付にて使用されると思われる項目に触れていく予定である。 また外国人講師による特別授業を数回設けた。 教科書はガイドとして使用する。			
■授業目的、到達目標			
歯科英語の習得。英語による受付対応ができるようになることを目的とする。			
■授業方法			
スライド、板書など ネイティブとの会話、ヒアリング練習。(特別授業)			
■教科書 (書籍名・著者・出版社)			
歯科英語の練習帳 萌文書林			
■成績評価・講義上の注意			
定期テスト、出席など総合的に判断をする。授業内容の変更もある。 特別講義には出席をすること。特別講義の日程は変更などがありうる			
■実務経験			
本学にて矯正学を教えています。 大学所属時代に定期的に英語論文に触れてきており、アメリカでも研修などを経験している。			
■授業計画 (講義の流れ)			
1	筆記体、イギリス英語とアメリカ英語、歯科英単語		
2	歯科英単語など		
3	歯科英単語など		
4	歯科英単語など		
5	Lesson 3		
6	特別授業		
7	特別授業		
8	特別授業		
9	特別授業		
10	特別授業		
11	Lesson5		
12	Lesson6		
13	特別授業		
14	特別授業		
15	定期試験、解答解説		

■科 目	コミュニケーション論		■講師名	利重牧子・池澤陽子
I 部 1 学年	通年	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間	講義 2 単位
池澤 陽子 講師		7 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 14 時間	
■学修概要				
学校生活における学生間および教職員とのコミュニケーションに始まり、臨床実習の場までコミュニケーション力が求められる機会は多い。歯科衛生士となった後、適切な患者対応を行うためにも必要な能力である。話すことにだけに囚われず、相手が話しやすくなる態度や姿勢を学んでいく。				
■授業目的、到達目標				
医療従事者として望ましい人間関係を築くことを目標に、自分や相手の気持ちを考え理解するコミュニケーションのとり方を考える。				
■授業方法				
講義・グループワークなど				
■教科書（書籍名・出版社）				
使用しない。場合によっては指示を出す。				
■成績評価・講義上の注意				
課題の提出、出席率、授業態度等の総合評価				
■実務経験				
歯科臨床での実務経験と歯科衛生士学校において専任教員として歯科予防処置を主体に担当してきた。 また、歯科衛生教育学会に所属し認定を取得している。				
■授業計画（講義の流れ）				
1	オリエンテーション（コミュニケーション論とは・自己紹介等）			
2	医療従事者としての身だしなみ（頭髪、爪、着衣）			
3	チームワークについて			
4	歯科衛生士の倫理綱領について①			
5	歯科衛生士の倫理綱領について②			
6	歯科衛生士の倫理綱領について③			
7	コミュニケーションの方法を学ぶ（学外研修） *学外研修の考察を課題とする			

■科 目	コミュニケーション論	■講師名	利重牧子・池澤陽子
I 部 1 学年	通年 15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間	講義 2 単位
利重 牧子 講師	8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 16 時間	
■学修概要			
<p>①コミュニケーションとは何かを理解する。</p> <p>②仕事に就いたときに、人間関係などの行き違いを小さくする。自分を知り、立場の違う人との円滑なコミュニケーションのコツを掴む。</p> <p>③仕事においてメンタル面で挫折しないように心構えや対策を伝える。</p>			
■授業目的、到達目標			
<p>①自身のコミュニケーション力の程度を理解し、「強みと弱み」の理解を深める。「強み」は自信に繋がることを知り、「弱み」は改善方法を知る。</p> <p>②受講して良かったと思えるものを残す。</p>			
■授業方法			
講義とロールプレイなどが中心となる。他者理解を深めるために相互コメントも取り入れる。			
■教科書（書籍名・出版社） 新人の「？」を解決するビジネスマナーQ&A 100 同文館出版 利重牧子			
■成績評価・講義上の注意			
記述式を含めた筆記試験。その上で受講態度を重んじる。			
■実務経験			
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション・マナー研修講師として大手企業の新入社員研修、役員研修、部下指導講座や就職対策セミナーなどを実施。 ・産業カウンセラーとして職場のカウンセリングを行う。 ・アンガーマネジメントジャパンの実践リーダーとして研修を実施。 ・「JAICO 認定心の健康アドバイザー」としてストレスマネジメント研修やハラスメント研修を実施。 			
■授業計画（講義の流れ）			
8	コミュニケーションの定義	・バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション ・豊かなコミュニケーション・マナーの重要性	
9	バーバルコミュニケーション	・敬語・積極的傾聴	
10	テキストコミュニケーションと対面コミュニケーションの違い	・報連相（口頭・メール）	
11	ビジネスメール	・電話応対の基本と応用	
12	電話応対	・基本復習と応用（職場事例）	
13	アサーティブコミュニケーション	・自分の気持ちも相手の気持ちも大切にした伝え方を学ぶ	
14	ストレスマネジメント		
15	定期試験と解説		

■科 目	解剖学	■講師名	中山 光子
I 部 1 学年	前期	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
歯科衛生活動に必要不可欠な基礎的な人体構造や機能について知識を修得する。			
■授業目的、到達目標			
授業目的：人体の構造と役割を理解する。 到達目標：人体の構造について十分に理解し、運動器や内臓、神経などの構造と役割を説明できる。			
■授業方法			
講義（講義資料を事前に用意し持参すること）			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
1. 定期試験による評価を行う。 2. 講義内容に関係のない私語や行動はやめること。 <u>ひどい場合は退出を命ずる。</u> 3. 講義中の写真・動画撮影、講義資料を SNS 等へ投稿することを禁ずる。			
■実務経験			
現在病理学講座に所属しているが、元解剖学講座教室員（日本大学松戸歯学部）として勤務した経験があり、口腔解剖学実習、解剖学実習などの実務経験に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	解剖学総論（解剖学用語・方向用語）		
2	骨格系（骨格系概論・頭蓋骨）		
3	骨格系（体幹骨・四肢骨）		
4	筋 系（筋概論・頭頸部の筋）		
5	筋 系（体幹の筋・四肢の筋）		
6	消化器（消化管）		
7	消化器（付属消化腺）		
8	呼吸器・循環器（心臓）		
9	循環器（動脈・静脈系・リンパ系）		
10	泌尿・生殖器		
11	神経器（神経系概論・中枢神経）		
12	神経器（末梢神経）		
13	感覚器		
14	内分泌器		
15	定期試験、解答解説		

■科目	栄養代謝学	■講師名	平石 奈月
I部1学年	後期	15コマ(1コマ90分授業)	総時間30時間 講義2単位
■学修概要			
栄養代謝学には、生化学・口腔生化学・栄養学の3つの分野が含まれる。生化学分野では、私たちが日々摂取している食物が体内でどのように変化して生命維持や健康実現に寄与しているのかを学ぶ。口腔生化学分野では、口腔の基礎および歯予防に関する食品や食品摂取方法を中心に学ぶ。栄養学分野では、食品が含む栄養素、国内の健康関連施策、ライフステージ別の栄養課題など、私たちの健康実現に関わる事項を幅広く学ぶ。			
■授業目的、到達目標			
健康実現のための食生活習慣について一人ひとりが関心をもち、自分自身の生涯を通じた健康づくりとQOLの高い人生を送るために役立つ知識と共に、歯科診療活動の一環としての栄養指導に必要な基礎知識の習得を目指す。			
■授業方法			
講義形式			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／生化学・口腔生化学 医歯薬出版			
歯科衛生学シリーズ／栄養学 医歯薬出版			
新食品成分表FOODS 2025年版 東京法令出版			
■成績評価・講義上の注意			
小テストおよび学期末試験による総合評価			
■実務経験			
管理栄養士としての国内外の食品規制に関する調査・研究、ならびに糖尿病療養指導士としての栄養指導による知識および経験に基づき、わかりやすく講義する。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	生化学分野：1章 人体の構成要素		
2	生化学分野：2章 人体における化学反応		
3	生化学分野：3章 糖質、脂質、タンパク質の代謝		
4	生化学分野：4章 糖質、脂質、タンパク質代謝の相互関連、5章 遺伝子とタンパク質		
5	生化学分野：6章 生体における恒常性の維持		
6	口腔生化学分野：1章 歯と歯周組織の生化学、2章 硬組織の生化学		
7	口腔生化学分野：3章 唾液の生化学、4章 プラークの生化学		
8	栄養学分野：1章 栄養学と歯科衛生士		
9	栄養学分野：2章 栄養素の種類とはたらき		
10	栄養学分野：3章 栄養素の消化・吸収		
11	栄養学分野：4章 健康と栄養		
12	栄養学分野：5章 食事と食品		
13	栄養学分野：6章 ライフステージと栄養		
14	栄養学分野：7章 栄養ケアマネジメント		
15	定期試験、解答解説		

■科 目	生理学	■講師名	白川 哲夫
I 部 1 学年	前期	10 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 20 時間 講義 1 単位
■学修概要			
私たちの体は、脳、心臓、肺など、それぞれが固有の働きを持つ多くの器官から成り立っている。体の基本的な構成単位は細胞であり、細胞の形や機能は器官ごとに異なっている。生理学では、さまざまな器官からなる体の内部の仕組みや、内部環境を維持している調節メカニズムについて学修する。			
■授業目的、到達目標			
口腔の健康管理を行うにあたり、口腔と全身の諸器官の働きとの関係を把握しておくことは重要である。この授業を通じて、歯科衛生士業務に必要な全身的な生理機能についての基本的知識を身につける。			
■授業方法			
教科書の内容に準じた Power Point による講義、板書			
■教科書（書籍名・著者・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
試験成績、出席、授業態度による総合評価			
■実務経験			
医学部生理学講座での研究歴が 4 年、神経科学センター（米国）での研究歴が 2 年、歯学部小児歯科学講座での教育および臨床の業務歴が 39 年。歯科衛生専門学校での教育歴が 19 年。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	生理学総論：ホメオスタシス、体温の産生と放散、体温の調節、体温の変動		
2	感覚：感覚の性質と種類、体性感覚の特徴、感覚情報の伝達		
3	神経系：神経系の概要と基本構造、中枢神経と末梢神経、神経細胞の興奮と伝導、脳波、自律神経		
4	筋と運動：筋の機能、運動ニューロン、筋電図、反射と随意運動、姿勢調節、高次機能		
5	消化・吸収：口腔での消化、胃の機能、小腸の機能、大腸の機能		
6	循環：血液の働き、心臓および血管の機能、循環の生理、心臓の活動電位、心電図、血圧の調節		
7	呼吸：呼吸と換気の仕組み、肺胞および組織におけるガス交換、呼吸の調節		
8	腎機能と排尿：腎臓の働き、尿の生成、尿の一般的性質		
9	内分泌・生殖：内分泌器官、ホルモンの作用機序と分泌調節、性周期、妊娠、乳汁分泌		
10	定期試験、解答解説		

■科 目	口腔生理学	■講師名	白川 哲夫
I 部 1 学年	後期	8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 16 時間 講義 1 単位
■学修概要			
口腔や顎・顔面が担っている咀嚼、嚥下、発声などの運動機能、痛覚、触覚、圧覚、味覚、嗅覚などの感覚機能、自律神経による唾液分泌調節などについて学修する。			
■授業目的、到達目標			
口腔領域のさまざまな器官について、それらがどのような仕組みで働いているかを把握しておくことは、歯科疾患を理解するうえで不可欠である。この授業を通じて、歯科衛生士業務に必要な口腔の生理機能についての基本的知識を身につける。			
■授業方法			
教科書の内容に準じた Power Point による講義、板書			
■教科書（書籍名・著者・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
試験成績、出席、授業態度による総合評価			
■実務経験			
医学部生理学講座での研究歴が 4 年、神経科学センター（米国）での研究歴が 2 年、歯学部小児歯科学講座での教育および臨床の業務歴が 39 年。歯科衛生専門学校での教育歴が 19 年。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	口腔顔面領域の感覚：口腔顔面痛、口腔顔面領域の触圧覚、温度感覚の神経機構		
2	味覚と嗅覚：味覚の役割、味覚の感受性、味覚受容器、嗅覚の役割、匂いの受容機構		
3	咬合と顎運動：下顎位、下顎の運動、顎反射、摂食行動と咀嚼能力		
4	吸啜と咀嚼：吸啜運動、咀嚼機能の発達、咀嚼筋と舌筋の働き		
5	嚥下と嘔吐：摂食と嚥下、嚥下の神経機構、嘔吐の機序		
6	発声・発語：発声機構の概要、声と構音のメカニズム、歯の欠損・不正咬合と構音		
7	唾液：唾液の分泌機構、唾液の性状、成分、唾液と疾患		
8	定期試験、解答解説		

■科 目	口腔解剖学	■講師名	中山 光子
I 部 1 学年	前期	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
歯科衛生活動をおこなうための頭頸部領域の専門的知識を理解し、臨床科目を理解するうえで必要な知識を修得する。			
■授業目的、到達目標			
授業目的：解剖学で勉強した知識を元に、頭頸部の詳しい構造を学習し歯科衛生士に必要な知識を得る。 到達目標：歯の形態や、頭蓋骨の構造、咀嚼に関する筋肉、神経の走行などを説明できる。			
■授業方法			
講義と歯牙模型の観察（講義資料を事前に用意し持参すること）			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
1. 定期試験による評価を行う。 2. 講義内容に関係のない私語や行動などはやめること。必要に応じて退出を命じる。 3. 学習内容の理解度に応じて、講義の進行や使用する標本等を変更する。 4. 講義中の写真・動画撮影、講義資料を SNS 等へ投稿することを禁ずる。			
■実務経験			
現在病理学講座に所属しているが、元解剖学講座教室員（日本大学松戸歯学部）として勤務した経験があり、口腔解剖学実習、解剖学実習などの実務経験に基づいて歯科衛生士養成に向けた授業を展開する。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	歯の一般構造		
2	切歯の形態 (講義と歯牙模型の観察)		
3	犬歯の形態 (講義と歯牙模型の観察)		
4	小白歯の形態 (講義と歯牙模型の観察)		
5	大臼歯の形態 (講義と歯牙模型の観察)		
6	頭蓋骨 (全体像)		
7	頭蓋骨 (脳頭蓋)		
8	頭蓋骨 (顔面頭蓋) (口腔を構成する骨)		
9	表情筋・咀嚼筋・頸部の筋		
10	循環器 (頭頸部の動脈系・静脈系・リンパ系)		
11	呼吸器系・消化器系		
12	神経系 (中枢神経 1)		
13	神経系 (中枢神経 2・脳神経 1)		
14	神経系 (脳神経 2・頸神経)		
15	定期試験、解答解説		

■科 目	組織・発生学	■講師名	岡田 裕之, 河野 哲朗																								
I 部 1 学年	後期	8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間																								
■学修概要			人体を構成する細胞・組織および、口腔内の諸器官における正常な組織構造、またそれらの発生過程について学習する。																								
■授業目的、到達目標			科学的根拠に基づいて歯科衛生士が行う業務を間違いなく実行できるよう、ヒトの体を構成する細胞、組織、器官の関係を理解し、ヒトの発生過程を学ぶ。歯および歯周組織のミクロ構造と発生を学び、患者へ組織構造の分かり易い説明が出来るように、また歯科疾患を理解する基礎知識を習得する。																								
■授業方法			教科書を使用し、パソコンによって組織像（模式図）、顕微鏡像を供覧する。 授業で使用するスライドの一部は閲覧できるようにする。																								
■教科書（書籍名・著者・出版社）			歯科衛生学シリーズ／人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ／歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版																								
■成績評価・講義上の注意			最終評価は全ての講義後に行う「平常試験評価点」(85%) また、提出物、授業態度および出欠(15%)にて評価を行う。最終評価が60点に達しない場合には、追・再試験期間中に全範囲における試験を行う。基本的事項の理解から始めて、学習で生じる疑問などを授業で積極的に質問すること。授業の内容量に対して、授業数が少ないため集中し講義に臨むこと。																								
■実務経験			現在、日本大学松戸歯学部での組織・発生学の講義・実習を担当しており、また大学病院および一般歯科医院での臨床経験に基づき以下の内容を教授する。																								
■授業計画（講義の流れ）			<table border="1"> <tr><td>1</td><td>細胞・四大組織（上皮組織）</td><td>(岡田)</td></tr> <tr><td>2</td><td>四大組織（支持組織）・皮膚の構造</td><td>(河野)</td></tr> <tr><td>3</td><td>四大組織（筋組織・神経組織）</td><td>(河野)</td></tr> <tr><td>4</td><td>歯冠と歯根を構成する組織（エナメル質・象牙質・歯髄複合体）</td><td>(河野)</td></tr> <tr><td>5</td><td>歯周組織（セメント質・歯根膜・歯槽骨・歯肉）</td><td>(河野)</td></tr> <tr><td>6</td><td>口腔粘膜ならびに唾液腺の構造、ヒトの初期発生</td><td>(河野)</td></tr> <tr><td>7</td><td>頸・顔面の発生、歯および歯周組織の発生</td><td>(河野)</td></tr> <tr><td>8</td><td>定期試験、解答解説</td><td>(河野)</td></tr> </table>	1	細胞・四大組織（上皮組織）	(岡田)	2	四大組織（支持組織）・皮膚の構造	(河野)	3	四大組織（筋組織・神経組織）	(河野)	4	歯冠と歯根を構成する組織（エナメル質・象牙質・歯髄複合体）	(河野)	5	歯周組織（セメント質・歯根膜・歯槽骨・歯肉）	(河野)	6	口腔粘膜ならびに唾液腺の構造、ヒトの初期発生	(河野)	7	頸・顔面の発生、歯および歯周組織の発生	(河野)	8	定期試験、解答解説	(河野)
1	細胞・四大組織（上皮組織）	(岡田)																									
2	四大組織（支持組織）・皮膚の構造	(河野)																									
3	四大組織（筋組織・神経組織）	(河野)																									
4	歯冠と歯根を構成する組織（エナメル質・象牙質・歯髄複合体）	(河野)																									
5	歯周組織（セメント質・歯根膜・歯槽骨・歯肉）	(河野)																									
6	口腔粘膜ならびに唾液腺の構造、ヒトの初期発生	(河野)																									
7	頸・顔面の発生、歯および歯周組織の発生	(河野)																									
8	定期試験、解答解説	(河野)																									

■科 目	病理学・口腔病理学	■講師名	岡田裕之、玉村 亮
I 部 1 学年	後期	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間
■学修概要			
病気の原因および身体に生じる変化について学ぶ。前半は総論として6大病変について、後半は口腔に発生する多種多様な疾患について学習する。			
■授業目的、到達目標			
病気の原因（病因）、発生機序（成りたち）、進展、転帰について理解する。 病理学は基礎医学と臨床医学の境界に位置する学問であり、歯科衛生士として必要な知識を習得する。			
■授業方法			
パワーポイントスライドを用いた講義を行う。			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／病理学・口腔病理学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
定期試験（筆記試験）および授業態度から総合的な評価を行う。 講義内容は広く多岐にわたるため、予習・復習が必要である。			
■実務経験			
歯学部口腔病理学講座教員として、講義（大学、看護学校、歯科衛生士学校等）、研究、また大学病院での病理診断業務に携わった経験があり、実務経験に基づいた講義を行う。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	病因論、遺伝性疾患と先天異常		
2	循環障害		
3	代謝障害と退行性病変、増殖と修復		
4	炎症		
5	免疫応答異常		
6	腫瘍		
7	歯の発育異常、歯の損傷と着色・付着物		
8	う蝕		
9	象牙質・歯髄複合体の病態		
10	歯周組織の病態		
11	口腔粘膜の病変		
12	口腔領域の囊胞と腫瘍		
13	口腔癌、顎骨の病変		
14	唾液腺の病変、口腔領域の奇形、口腔組織の加齢変化		
15	定期試験、解答解説		

■科 目	微生物学	■講師名	田村 宗明
I 部 1 学年	前期	10 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 20 時間 講義 1 単位
■学修概要			
微生物総論ではその種類と特徴および病原性を学び感染症を理解する。その一方、生体の感染防御機序の基礎である免疫を学び、感染症発症の背景や常在細菌と宿主との共生関係の重要性を理解する。			
■授業目的、到達目標			
一般病原性微生物の種類と特徴、病原因子および関連する感染症について学びその発症機序が説明できる。我々を感染症から守ってくれている免疫の種類、特徴および機序について説明できる。これらの知識を基に、口腔医療従事者として口腔感染症および全身疾患の予防法と専門的口腔ケアの重要性を理解するとともに、今後の歯科医療において重要な医歯科連携環境下における歯科医療の役割、衛生士の役割とは何かを自覚する。			
■授業方法			
講 義			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／微生物学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
定期試験 (80%)と受講態度 (20%) により総合的に評価する。			
■実務経験			
これまで 30 年間以上にわたり日本大学歯学部において口腔微生物と免疫学に関する研究と教育を行ってきている。また、日本大学歯学部付属歯科衛生士学校で口腔微生物と免疫学の、本校では歯科英語の講義経験を有する。これらを通して歯科衛生士の立場からう蝕と歯周病をはじめとする口腔疾患の微生物要因ならびに免疫学について、本教科で学ぶ内容がいかに歯科臨床の現場で活かされるかを感じ取れる場を提供したいと考えている。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	ガイダンス、微生物学の歴史と世界、疾患と発症 (4/16)	pp. 2 ~ 4	
2	感染と感染症、細菌の形態と構造、代謝 (4/23)	pp. 5 ~ 22	
3	細菌の増殖、病原因子、グラム陽性の球菌と桿菌、グラム陰性の球菌 (4/30)	pp. 13 ~ 22, 108 ~ 120	
4	グラム陰性の桿菌、特殊細菌 (5/7)	pp. 121 ~ 130	
5	真菌、原虫、ウイルス (5/14)	pp. 22 ~ 39, 131 ~ 160	
6	免疫 I 免疫の仕組み、自然・獲得免疫、抗原提示 (5/21)	pp. 162 ~ 174	
7	免疫 II ワクチン、アレルギー、免疫疾患 (5/28)	pp. 175 ~ 191	
8	化学療法、消毒 (6/4)	pp. 40 ~ 55	
9	滅菌、院内感染予防 (6/11)	pp. 55 ~ 61	
10	定期試験、解答解説 (6/18)		

■科 目	口腔微生物学	■講師名	田村 宗明
I 部 1 学年	後期	8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間 講義 1 単位
■学修概要			
口腔微生物学では、口腔微生物の種類と特徴を学び、口腔の二大疾患う蝕と歯周病を中心にさまざまな口腔感染症を学ぶ。さらに、口腔疾患を誘因とする全身疾患を学びその背景を理解する。			
■授業目的、到達目標			
口腔細菌の種類と特徴および口腔の二大疾患・う蝕と歯周病を中心にさまざまな口腔感染症を学びその発症機序について病原微生物側と宿主側より説明できる。口腔感染症を誘因とする全身疾患とその発症機序および高齢者に特有の口腔感染症について説明できる。これらの知識を基に、口腔医療従事者として口腔感染症および全身疾患の予防法と専門的口腔ケアの重要性を理解するとともに、今後の歯科医療において重要な医歯連携環境下における歯科医療の役割、衛生士の役割とは何かを自覚する。			
■授業方法			
講 義			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／微生物学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
定期試験 (80%)と受講態度 (20%) により総合的に評価する。			
■実務経験			
これまで 30 年間以上にわたり日本大学歯学部において口腔微生物と免疫学に関する研究と教育を行ってきている。また、日本大学歯学部付属歯科衛生士学校で口腔微生物と免疫学の、本校では歯科英語の講義経験を有する。これらを通して歯科衛生士の立場からう蝕と歯周病をはじめとする口腔疾患の微生物要因ならびに免疫学について、本教科で学ぶ内容がいかに歯科臨床の現場で活かされるかを感じ取れる場を提供したいと考えている。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	口腔内環境 (10/1) pp. 64 ~ 71		
2	口腔微生物、デンタルプラーク (10/8) pp. 72 ~ 82		
3	う蝕 (10/15) pp. 83 ~ 90		
4	歯周病 1 (10/22) pp. 91 ~ 100		
5	歯周病 2 (10/29) pp. 91 ~ 100		
6	その他の口腔感染症 1 (11/5) pp. 101 ~ 105		
7	その他の口腔感染症 2 (11/12) pp. 101 ~ 105		
8	定期試験、解答解説 (11/19)		

■科 目	薬理学	■講師名	池田 利恵
I 部 1 学年	後期	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
歯科衛生士に必要な薬理学的知識、すなわち治療や予防に使用する薬物の種類、作用、作用機序および副作用などに関する基本的知識を学ぶ。また、薬物に関する法律を学び、薬物の取り扱いを理解する。			
■授業目的、到達目標			
歯科衛生士として歯科臨床業務に従事する際に必要となる薬理学的知識を身につけるとともに、薬物に関する法律を知り、薬物の取り扱いを理解することを目的とする。			
■授業方法			
講義を主体として行う。			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／第2版 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
定期試験の結果と授業への参加態度を総合して評価とする。			
■実務経験			
1984年3月北里大学薬学部薬学科卒業。1984年4月より現在に至るまで、日本歯科大学生命歯学部解剖学第2講座にて「組織学」授業を担当している。2008年4月より現在に至るまで、日本歯科大学東京短期大学において「組織発生学」「薬理学」などの科目を担当している。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	薬物の定義と薬理作用		
2	薬物の用量と薬理作用の機序		
3	薬物動態と薬物の適用方法		
4	薬物の作用に影響を与える要因と副作用、医薬品を適用する際の注意		
5	薬物に関連する法律と薬物の取り扱い		
6	末梢神経系に作用する薬物		
7	中枢神経系に作用する薬物		
8	循環器系・呼吸器系・消化器系に作用する薬物		
9	血液に作用する薬物		
10	免疫系に作用する薬物、抗悪性腫瘍薬および代謝性疾患治療薬		
11	抗炎症薬		
12	痛みと薬物		
13	抗感染症薬と消毒薬		
14	歯科疾患に用いる薬物、和漢薬		
15	定期試験、解答解説		

■科 目	口腔衛生学 I		■講師名	田中 入
I部 1 学年	前期	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間	講義 2 単位
■学修概要				
近年、WHO（世界保健機関）および厚生労働省は健康に関する具体的な数値目標を掲げている。それはつまり疾病の有無や程度ではなく、予防管理に重点を置いている事にほかならない。近代医学においては予防医学がその主流となっており、口腔疾患を防ぐ思考の確立は臨床における必須要件である。				
■授業目的、到達目標				
衛生学・公衆衛生学を基とする口腔衛生学の内容と目的を理解する。すなわち歯科領域における口腔の健康像と疾病像の動態を正しく理解し、病因探索、要因除去および健康管理を行う技量を会得する。また予防歯科臨床に重要な事項を疾病別に理解・修得して実践に生かせる知識を得る。さらには直近の課題となる感染症対策の実践方法もその対象となる細菌・ウィルスの特性を踏まえて習得する。				
■授業方法				
講義、板書に加えてスライド、動画などを併用して行う。また必要に応じて質疑応答を行い、正答した者には加点を行う。(ただし不正解でも減点は実施しない)				
■教科書（書籍名・出版社）				
歯科衛生学シリーズ／歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学 医歯薬出版				
■成績評価・講義上の注意				
中間テスト（論述筆記形式）、出席日数、成書朗読、受講態度（私語、居眠りなど）および質疑応答などから総合的に評価する。なお筆記試験の採点には相対指數を採用する。				
■実務経験 歯科医師の資格を取得してすぐに予防歯科学への道を進み、大学病院の口腔保健科に 11 年在籍した後もその概念に則した歯科臨床を 20 年以上継続している。歯学博士、日本口腔衛生学会専門医、埼玉県障害者歯科相談医を取得しており、明海大学歯学部客員講師、埼玉県歯科医師会地域保健部副部長および朝霞地区歯科医師会地域保健担当理事を 10 年以上務めている。				
■授業計画（講義の流れ）				
1	口腔衛生学の概要、歯科疾病予防の概念			
2	う蝕の疫学的特性（1）			
3	同 上 （2）			
4	う蝕の発生に関わる要因（1）			
5	同 上 （2）			
6	う蝕活動性			
7	う蝕予防法とその種類			
8	フッ化物の性状・代謝、う蝕予防機序			
9	フッ化物の慢性毒性および急性毒性（1）			
10	同 上 （2）			
11	フッ化物応用法（全身応用法）			
12	フッ化物応用法（局所応用法）（1）			
13	同 上 （2）			
14	同 上 （3）			
15	定期試験、解答解説定期試験、解答解説			

■科 目	歯科衛生士概論	■講師名	渡辺 節子		
I 部 1 学年	後期	15 コマ (1コマ 90 分授業)	総時間 30 時間		
■学習概要					
全身の健康維持のため口腔の健康の重要性が広く認知される中で、歯科衛生学の全体像を理解する。歯科衛生士の役割と法的位置づけ、専門職としての自覚・心構え、医療倫理を学ぶ。					
■授業目的、到達目標					
倫理的視点かつ科学的な裏づけをもって歯科衛生活動を行うために必要な専門知識、態度を身につける。また歯科衛生士として保健、医療、福祉に関わる意義を理解する。					
■授業方法					
講義・グループディスカッション					
■教科書（書籍名・出版社）					
歯科衛生学シリーズ／歯科衛生学総論		医歯薬出版			
歯科衛生学シリーズ／保健・医療・福祉の制度		医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意					
総合評価（授業態度、出席状況、提出物、定期試験等）					
■実務経験					
歯科医院で長きに渡り予防歯科と携わる。その実績を反映し臨床経験に基づき幅広い視点から歯科衛生士が担う役割と知識、心構えを学ぶ機会を提供したいと考えている。					
■授業計画（講義の流れ）					
1	歯科衛生学とは				
2	歯科衛生の歴史				
3	歯科衛生活動の現況①（歯科衛生士の動向・歯科衛生活動の場）				
4	歯科衛生活動の現況②（チーム医療における歯科衛生活動）				
5	歯科衛生士法①（歯科衛生士法の成り立ち・歯科衛生士の定義と業務）				
6	歯科衛生士法②（免許・歯科衛生士名簿・登録・免許証の交付及び届出）				
7	歯科衛生士法③（国家試験・その他の業務上の義務）				
8	関連法規（歯科医師法・歯科技工士法・医療法等）				
9	医療安全管理①（リスクマネジメント）				
10	医療安全管理②（感染予防）				
11	医療倫理				
12	歯科衛生活動のための理論（科学的思考）				
13	歯科衛生過程				
14	まとめ				
15	定期試験、解答解説				

■科 目	口腔衛生学Ⅱ	■講師名	田中 入
I部 1 学年	後期	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間 講義 2 単位
■学修概要			
<p>近年、WHO（世界保健機関）および厚生労働省は健康に関する具体的な数値目標を掲げている。それはつまり疾病の有無や程度ではなく、予防管理に重点を置いている事にほかならない。近代医学においては予防医学がその主流となっており、口腔疾患を防ぐ思考の確立は臨床における必須要件である。</p>			
■授業目的、到達目標			
<p>衛生学・公衆衛生学を基とする口腔衛生学の内容と目的を理解する。口腔衛生学Ⅱでは地域保健をその中心として、地域共生社会に貢献できる歯科医療従事者の育成を目指す。すなわち地域ごと、ライフステージごとに必要とされる歯科保健の知識を会得し、少子化社会、学校保健、成人・産業保健および超高齢化社会で活躍できる歯科衛生士となることを目指す。またグローバルな活動を目標とする者に対する後援を実施する。</p>			
■授業方法			
<p>講義、板書に加えてスライド、動画などを併用して行う。また必要に応じて質疑応答を行い、正答した者には加点を行う。(ただし不正解でも減点は実施しない)</p>			
■教科書（書籍名・出版社）			
最新歯科衛生士教本／歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学 第3版 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
<p>期末テスト（論述筆記形式）、出席日数、成書朗読、受講態度（私語、居眠りなど）および質疑応答などから総合的に評価する。なお筆記試験の採点には相対指數を採用する。</p>			
■実務経験 歯科医師の資格を取得してすぐに予防歯科学への道を進み、大学病院の口腔保健科に11年在籍した後もその概念に則した歯科臨床を20年以上継続している。歯学博士、日本口腔衛生学会専門医、埼玉県障害者歯科相談医を取得しており、明海大学歯学部客員講師、埼玉県歯科医師会地域保健部副部長および朝霞地区歯科医師会地域保健担当理事を10年以上務めている。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	歯周疾患の疫学的特性		
2	その他の歯科疾患の疫学的特性について		
3	ライフステージごとの口腔保健管理		
4	地域歯科保健活動の概要		
5	歯科保健における行政の役割および8020運動、噛みんぐ30など		
6	健康増進対策の歴史と健康日本21（第3次）		
7	集団健診と事後措置		
8	母子歯科保健対策 出産前から乳幼児期まで		
9	学校歯科保健対策 学童期における歯科保健		
10	産業歯科保健対策 生産年齢における糖尿病連携、栄養関連など		
11	成人歯科保健対策 生活習慣病対策、行動変容など		
12	高齢者歯科保健対策 前期・後期高齢者の特異的な歯科保健		
13	2025年問題と地域包括ケアシステム		
14	障害者歯科保健対策、精神衛生、社会福祉		
15	定期試験、解答解説		

■科 目	衛生学・公衆衛生学	■講師名	大島 克郎
I 部 1 学年	前期 15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間	講義 2 単位
■学修概要			
人の健康に関連する社会環境、自然環境および健康寿命の延伸と健康格差の解消のための地域保健の在り方を学ぶ			
■授業目的、到達目標			
健康の定義と疾病予防の概念を修得するとともに、社会環境と自然環境の実態を理解するほか、地域保健の概念と実際を理解する。			
■授業方法			
講義を主体として行う。			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／保健生態学 医歯薬出版			
<参考図書>			
国民衛生の動向（厚生の指標 増刊） 厚生労働統計協会			
■成績評価・講義上の注意			
記述式、選択肢式の期末テストにて評価			
■実務経験			
2003 年日本歯科大学大学院歯学研究科修了。日本歯科大学附属病院、厚生労働省などの勤務を経て、2015 年日本歯科大学東京短期大学・教授。現在は、日本歯科大学東京短期大学において、衛生学、衛生行政などの科目を、日本歯科大学生命歯学部において衛生学などの科目を担当している。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	総論：健康の概念		
2	疫学		
3	人口		
4	環境衛生		
5	感染症		
6	食品と健康		
7	地域保健・公衆衛生①		
8	地域保健・公衆衛生②		
9	母子保健		
10	学校保健		
11	産業保健		
12	成人・高齢者保健、精神保健		
13	災害時歯科保健・国際保健		
14	まとめ		
15	定期試験、解答解説		

■科 目	歯科臨床概論	■講師名	岩脇 淳志
I部 1学年	後期 8コマ (1コマ 90分授業)	総時間 15時間	講義 1単位
■学修概要			
歯科衛生士として歯科治療に携わるにあたり、歯科治療の概要を習得する。			
■授業目的、到達目標			
歯科診療の概略を理解すること。			
■授業方法			
教科書を主体に講義を行い、補足資料を適宜アップする。			
■教科書（書籍名・出版社）			
新・歯科衛生士教育マニュアル／歯科臨床の基礎と概論 クインテッセンス株式会社			
■成績評価・講義上の注意			
定期試験、出席状況などによる総合評価			
■実務経験			
9年以上明海大学で歯科医師として専門的業務に従事			
■授業計画（講義の流れ）			
1	歯科医療 総論①（歯科医療に関わる職種、歯科診療所）		
2	歯科医療 総論②（医の原則、医療安全、医療面接）		
3	歯科保存治療の流れ		
4	歯周治療の流れ		
5	歯科補綴治療（クラウン・ブリッジ治療、有床義歯治療）の流れ		
6	口腔外科治療の流れ		
7	高齢者・小児の歯科治療、矯正治療の流れ		
8	定期試験、解答解説		

■科 目	保存修復学	■講師名	保坂 誠
I 部 1 学年	後期	10 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 20 時間
■学修概要			
保存修復学の概要を学び、歯牙硬組織に由来する疾患の成立機序や、う蝕などにより欠損した歯牙硬組織の修復（治療）方法について学習する。			
■授業目的、到達目標			
保存修復学における歯牙硬組織疾患の診査・診断・治療の手順と歯科衛生士の役割について修得する。			
■授業方法			
講義			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
定期試験、出席率、授業態度の総合評価			
■実務経験			
歯科大学保存修復学講座で臨床、教育を行った後、歯科衛生士校で教育を長年にわたり担当してきた。また、臨床経験を活かし歯科臨床研修医の教育・指導に携わっている。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	保存修復の概要、硬組織疾患		
2	窩洞と保存修復治療		
3	保存修復治療の準備		
4	コンポジットレジン修復 (1)		
5	コンポジットレジン修復 (2)		
6	セメント修復、歯の漂白法		
7	間接法修復 (1) メタルインレー修復		
8	間接法修復 (2) セラミック/ハイブリッドセラミックインレー修復、CAD/CAM インレー修復		
9	ベニア修復、合着材および接着材、アマルガム修復、補修修復、歯科衛生士の役割、まとめ		
10	定期試験、解答解説		

■科 目	歯科予防処置 I	■講師名	池澤 陽子																														
I 部 1 学年	前期 15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間	講義 2 単位																														
■学修概要			歯科疾患の予防や口腔管理に対する知識や技術、医療従事者としての安全管理や心構え等を修得する。																														
■授業目的、到達目標			歯周組織を理解し、歯周疾患の予防に必要な予防的歯石除去法の知識、技術、態度を習得する。																														
■授業方法			講義・実習																														
■教科書（書籍名・出版社）			歯科衛生学シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版																														
■成績評価・講義上の注意			総合評価（実技・実技試験・期末試験・課題提出・出席状況・授業態度を考慮する） 実習においては行動目標の到達状況により補習を行う。																														
■実務経験			歯科臨床での実務経験と歯科衛生士学校において専任教員として歯科予防処置を主体に担当してきた。 また、歯科衛生教育学会に所属し認定を取得している。																														
■授業計画（講義の流れ）			<table border="1"> <tr><td>1</td><td>【講義】使用器具の種類</td></tr> <tr><td>2</td><td>【講義】器具の操作方法（把持・固定）</td></tr> <tr><td>3</td><td>【机上実習】器具の操作方法（把持・固定）</td></tr> <tr><td>4</td><td>【ファントーム実習】器具の操作方法（ファントーム・ミラー）</td></tr> <tr><td>5</td><td>【ファントーム実習】シックルスケーラー上顎前歯部</td></tr> <tr><td>6</td><td>【ファントーム実習】シックルスケーラー下顎前歯部</td></tr> <tr><td>7</td><td>【ファントーム実習】シックルスケーラー下顎臼歯部</td></tr> <tr><td>8</td><td>【ファントーム実習】シックルスケーラー上顎臼歯部</td></tr> <tr><td>9</td><td>【ファントーム実習】シックルスケーラーまとめ</td></tr> <tr><td>10</td><td>【ファントーム実習】シックルスケーラー評価</td></tr> <tr><td>11</td><td>【ファントーム実習】シックルスケーラー評価</td></tr> <tr><td>12</td><td>【講義】シックルスケーラーシャープニング</td></tr> <tr><td>13</td><td>【机上実習】シックルスケーラーシャープニング</td></tr> <tr><td>14</td><td>【講義】口腔内検査</td></tr> <tr><td>15</td><td>定期試験、解答解説</td></tr> </table>	1	【講義】使用器具の種類	2	【講義】器具の操作方法（把持・固定）	3	【机上実習】器具の操作方法（把持・固定）	4	【ファントーム実習】器具の操作方法（ファントーム・ミラー）	5	【ファントーム実習】シックルスケーラー上顎前歯部	6	【ファントーム実習】シックルスケーラー下顎前歯部	7	【ファントーム実習】シックルスケーラー下顎臼歯部	8	【ファントーム実習】シックルスケーラー上顎臼歯部	9	【ファントーム実習】シックルスケーラーまとめ	10	【ファントーム実習】シックルスケーラー評価	11	【ファントーム実習】シックルスケーラー評価	12	【講義】シックルスケーラーシャープニング	13	【机上実習】シックルスケーラーシャープニング	14	【講義】口腔内検査	15	定期試験、解答解説
1	【講義】使用器具の種類																																
2	【講義】器具の操作方法（把持・固定）																																
3	【机上実習】器具の操作方法（把持・固定）																																
4	【ファントーム実習】器具の操作方法（ファントーム・ミラー）																																
5	【ファントーム実習】シックルスケーラー上顎前歯部																																
6	【ファントーム実習】シックルスケーラー下顎前歯部																																
7	【ファントーム実習】シックルスケーラー下顎臼歯部																																
8	【ファントーム実習】シックルスケーラー上顎臼歯部																																
9	【ファントーム実習】シックルスケーラーまとめ																																
10	【ファントーム実習】シックルスケーラー評価																																
11	【ファントーム実習】シックルスケーラー評価																																
12	【講義】シックルスケーラーシャープニング																																
13	【机上実習】シックルスケーラーシャープニング																																
14	【講義】口腔内検査																																
15	定期試験、解答解説																																

■科 目	歯科予防処置Ⅱ	■講師名	池澤 陽子
I部 1学年	後期 30コマ (1コマ90分授業)	総時間 60時間	実習 2単位
■学修概要			
歯科疾患の予防や口腔管理に対する知識や技術、医療従事者としての安全管理や心構え等を修得する。			
■授業目的、到達目標			
歯周組織を理解し、歯周疾患の予防に必要な予防的歯石除去法の知識、技術、態度を習得する。			
■授業方法			
講義・実習			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
総合評価（実技・実技試験・期末試験・課題提出・出席状況・授業態度を考慮する） 実習においては行動目標の到達状況により補習を行う。			
■実務経験			
歯科臨床での実務経験と歯科衛生士学校において専任教員として歯科予防処置を主体に担当してきた。 また、歯科衛生教育学会に所属し認定を取得している。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	【講義】緊急時の対応・相互実習ガイド		
2	【ファントーム実習】口腔内検査・触診・シックルスケーラーでのスケーリング		
3	【相互実習】口腔内検査		
4	【相互実習】口腔内検査		
5	【相互実習】触診・シックルスケーラーでのスケーリング（上下顎前歯部）		
6	【相互実習】触診・シックルスケーラーでのスケーリング（上下顎前歯部）		
7	【相互実習】触診・シックルスケーラーでのスケーリング（下顎臼歯部）		
8	【相互実習】触診・シックルスケーラーでのスケーリング（下顎臼歯部）		
9	【相互実習】触診・シックルスケーラーでのスケーリング（上顎臼歯部）		
10	【相互実習】触診・シックルスケーラーでのスケーリング（上顎臼歯部）		
11	【講義】パワースケーラー		
12	【講義】歯面研磨・歯面清掃		
13	【ファントーム実習】超音波スケーラー・歯面研磨		
14	【ファントーム実習】超音波スケーラー・歯面研磨		
15	【相互実習】超音波スケーラー・歯面研磨		
16	【相互実習】超音波スケーラー・歯面研磨		
17	【講義】キュレットスケーラー（机上実習まで）		
18	【講義】プロービング（机上実習まで）		
19	【ファントーム実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（前歯部）		

20	【ファントーム実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（下顎臼歯部）
21	【ファントーム実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（上顎臼歯部）
22	【ファントーム実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング復習
23	【ファントーム実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング評価
24	【ファントーム実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング評価
25	【相互実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（下顎）
26	【相互実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（下顎）
27	【相互実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（上顎）
28	【相互実習】プロービング・キュレットスケーラーでのスケーリング（上顎）
29	【講義・机上実習】キュレットスケーラーシャープニング・まとめ
30	定期試験・解答解説

■科 目	歯科保健指導 I	■講師名	君島 茜
I部 1学年	通年 35コマ (1コマ90分授業)	総時間 70時間	講義 4単位
■学修概要			
歯科衛生士業務の1つである歯科保健指導を、ブラッシング指導や栄養指導など講義や実習を通して保健指導を行うために必要な技法を実践的に習得する。多様な対象者に対して専門的立場から口腔の健康維持・増進について助言と支援を行うために必要な知識と技術を習得する。			
■授業目的、到達目標			
歯科保健指導を実施する上で必要な器具や方法などの基礎知識を習得する。さまざまな生活習慣・生活環境・健康状態の対象者を理解し、対象者に見合った歯科保健指導を行うための知識と技術を習得する。			
■授業方法			
講義 試験 実習			
■教科書（書籍名・著者・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
総合評価（授業態度、出席状況、提出物、定期試験等）			
■実務経験			
大学病院の一般歯科・小児歯科・障害者歯科・訪問歯科・有病者歯科での臨床経験がある歯科衛生士の立場から、本教科において必要な知識と技術を伝える。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	歯科保健指導総論		
2			
3			
4	食生活指導のための基礎知識		
5			
6			
7	歯磨剤		
8	歯垢染色		
9			
10	ブラッシング法（染め出し実習）		
11	補助清掃用具		
12			
13	分析のためのデータ（指數）		
14			
15	前半のまとめ		
16	中間試験		
17	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理		
18	全身の健康状態・認知機能の把握		

19	生活環境と生活背景・生活習慣の把握
20	口腔の器質的問題の把握
21	口腔の器質的問題の把握
22	口腔の機能的問題の把握
23	
24	口腔機能管理に関わる指導
25	
26	禁煙支援
27	保健行動支援のための基礎知識
28	
29	歯科衛生過程の進め方
30	
31	災害時の歯科保健
32	相互実習（染め出し・ブラッシング指導）
33	
34	後半のまとめ
35	期末試験・解答解説

■科 目	歯科診療補助 I	■講師名	橋本 治美		
I 部 1 学年	前期 15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間	講義 2 単位		
■学修概要					
歯科診療の補助に必要な基礎知識および技術、器具・器材の取扱い、患者への対応法をエビデンスと共に理解することで各臨床科目の補助にも興味を広げていく。					
■授業目的、到達目標					
歯科衛生士が行う歯科診療補助の法的意味と役割を理解する。歯科診療補助の基礎を認識し、器具・器材の取扱い方法やその留意点を理解する。また高度化・複雑化する歯科医療に対応した診療補助業務を効率的に行うための基礎知識を習得する。					
■授業方法					
講義 (実習含む)					
■教科書 (書籍名・著者・出版社)					
歯科衛生学シリーズ/歯科診療補助論		医歯薬出版			
歯科衛生学シリーズ/歯科機器		医歯薬出版			
歯科衛生学シリーズ/歯科材料		医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意					
授業態度、実習態度、出席状況、提出物、小テスト、定期試験の総合評価					
■実務経験					
口腔外科を中心とする歯科医院での歯科衛生士として診療に携わる。その経験を基に専任教員として診療補助を担当。					
■授業計画 (講義の流れ)					
1	歯科診療補助の概念				
2	医療安全				
3	感染予防①				
4	感染予防②				
5	手指衛生 (実習)				
6	衛生材料 (実習)				
7	歯科診療における基礎知識①				
8	歯科診療における基礎知識② (実習)				
9	歯科診療における基礎知識③ (実習)				
10	印象材①				
11	印象材② (実習)				
12	模型材① (実習)				
13	合着材・接着材①				
14	合着材・接着材②				
15	定期試験、解答解説				

■科 目	歯科診療補助Ⅱ	■講師名	橋本 治美		
I 部 1 学年	通年	30 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 60 時間		
■実習単位					
■学修概要					
歯科診療補助Ⅰと併行して、診療機器や歯科材料の取扱方法および共同動作等の背景・理論を理解した上で、これらの知識を駆使して診療補助あるいは診療を行うための技法を学習する。					
■授業目的、到達目標					
歯科衛生士の三大業務のひとつである歯科診療補助についてその内容を理解する。患者へ配慮をしながら、診療の流れに沿ったスムーズな補助を行うために器具・器材の取扱い方法やその留意点を理解し手技を身に付ける。					
■授業方法					
実習（講義含む）					
■教科書（書籍名・著者・出版社）					
歯科衛生学シリーズ／歯科診療補助論		医歯薬出版			
歯科衛生学シリーズ／歯科機器		医歯薬出版			
歯科衛生学シリーズ／歯科材料		医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意					
出席、実習態度、レポート提出、実技テスト等による総合評価					
■実務経験					
口腔外科を中心とする歯科医院での歯科衛生士として診療に携わる。その経験を基に専任教員として診療補助を担当。					
■授業計画（講義の流れ）					
1	共同動作①				
2	共同動作②（相互実習オリエンテーション）				
3	共同動作③（マネキン実習 バキューム操作）				
4	共同動作④（相互実習 フォーハンドテクニック）				
5	共同動作⑤（相互実習 フォーハンドテクニック）				
6	口腔内診査①				
7	口腔内診査②（相互実習 口腔内診査・記録）				
8	口腔内診査③（相互実習 口腔内診査・記録）				
9	模型材②				
10	模型材③（実習）				
11	印象材③（マネキン実習 印象探得）				
12	模型材④（実習 石膏注入）				
13	スタディモデル①（マネキン実習）				
14	スタディモデル②（マネキン実習）				
15	印象材④（実習）				

16	その他の材料
17	印象材⑤ 印象採得実技試験
18	合着材・接着材③（実習）
19	合着材・接着材④（実習）
20	合着材・接着材⑤（実習）
21	仮封材①
22	仮封材②（実習）
23	対面直接行為①
24	対面直接行為②（マネキン実習 隔壁・歯間分離・歯肉圧排）
25	対面直接行為③（マネキン実習 ラバーダム防湿）
26	対面直接行為④（マネキン実習 ラバーダム防湿）
27	対面直接行為⑤（マネキン実習 ラバーダム防湿 2歯露出法）
28	対面直接行為⑥（マネキン実習 ラバーダム防湿 2歯露出法）
29	スタディモデル③（相互実習 スタディモデル製作）
30	定期試験・解答解説

■科 目	歯科材料学 I	■講師名	青柳 有祐
I 部 1 学年	後期	8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 12 時間
■学修概要			
歯科診療に使用する歯科材料のそれぞれの特性・用途およびその取扱いについて、歯科衛生士としての必要な知識の習得を目的とする。			
■授業目的、到達目標			
歯科医療従事者として必要な歯科材料の取り扱いとその基礎知識を理解する。 歯科材料の取り扱い説明書の内容を理解する知識を得る。 診療補助の場での的確な作業・行動と歯科材料の取り扱いを習得する。			
■授業方法			
講義： 教科書、 クラスルームでのウェブ資料配布、 PCにより解説を行う。			
■教科書（書籍名・出版社）			
最新歯科衛生士教本／歯科材料 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
中間試験、定期試験・追再試験の成績、小テスト、出欠状況および講義態度を評価対象とし、総合判断を行い評価とする。			
■実務経験			
日本歯科大学歯科理工学講座所属の歯科医師（非常勤講師）で歯科理工学の教育経験は 10 年以上であり臨床及び大学での経験を基に材料の取り扱いについて理解を深めること目標とする。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	歯科材料と科学		
2	歯科材料の物性、機械的性質等、基礎知識について学ぶ		
3	印象材の基礎		
4	性質と物性、操作法について学ぶ		
5	歯科用模型材の基礎、性質と物性、操作法について学ぶ		
6	歯科用セメントの基礎、性質と物性、操作法について学ぶ		
7	接着剤・合着材について学ぶ		
8	臨床関連材料について学ぶ		
9	定期試験		

■科 目	総合講座 I		■講師名	池澤 陽子
I 部 1 学年	通年	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間	講義 2 単位
■学修概要				
日本ウェルネス歯科衛生専門学校で学び研究することの意義について考えると共に、高校までの受動的な学びとは全く異なる学術研究の作法を習得させる。この授業科目は、専門教育の前段となる基礎教育だけではなく、社会人として学修することの意義やその在り方について理解し、育成することをねらう。				
■授業目的、到達目標				
日本ウェルネス歯科衛生専門学校での3年間の学びを効果的に行うために、授業・実習・演習において共通して求められる心構えおよび学修技法の基本を身につける。「学び」とはどういうことかを仲間と共に考え、卒業後も学び続ける力をつける。				
■授業方法				
講義・演習				
■教科書（書籍名・著者・出版社）				
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版、保健生態学、 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学／医歯薬出版				
歯科衛生士書き込み式学習ノート ①専門基礎科目編／医歯薬出版 ②社会歯科系科目編／医歯薬出版				
■成績評価・講義上の注意				
成績評価は、出席状況と講義中の態度ならびに課題、小テストを総合評価する。 講義上の注意は、私語を慎み、講義に積極的に参加する。				
■実務経験				
歯科臨床での実務経験と歯科衛生士学校において専任教員として歯科予防処置を主体に担当してきた。 また、歯科衛生教育学会に所属し認定を取得している。				
■授業計画（講義の流れ）				
1	本学の特徴や教育内容、学習方法や充実した学生生活を送る方法・本学のカリキュラムマップの理解			
2	専門学校で「学ぶ」ことを理解する①（高等学校との違い・シラバス）			
3	専門学校で「学ぶ」ことを理解する②（オンライン授業の受講方法と心構え）			
4	論理的思考力・省察力・継続力をつける（各試験・進級に向けての学習姿勢と心構え）			
5	歯科衛生業務に関する基礎知識①（歯科予防と歯科保健）			
6	歯科衛生業務に関する基礎知識②（口腔の基礎知識①口腔の構造）			
7	歯科衛生業務に関する基礎知識③（口腔の基礎知識②口腔の機能）			
8	歯科衛生業務に関する基礎知識④（口腔内の付着物・沈着物）			
9	歯科衛生業務に関する基礎知識⑤（う蝕と歯周病）			
10	基礎学力をつける①			
11	基礎学力をつける②			
12	基礎学力をつける③			
13	基礎学力をつける④			
14	基礎学力をつける⑤			

